

管理施設一覧

(R7.4.1)

名称	構造	面 積	取得	年度	取得価格	備 考
屋外ステージ	木造	168.55 m ²	建設	昭46	4,950,000 円	
屋外キュービクル	鉄骨鋼板張り	1 箇所	〃	46	2,210,000 円	
国旗掲揚塔	鋼管ポール	1 箇所	〃	46	140,000 円	
飼料貯蔵庫	鉄骨造	121.00 m ²	〃	49	9,717,400 円	H28屋上防水改修
管理倉庫	木造モルタル	62.37 m ²	〃	52	6,720,000 円	
乾草倉庫	軽量鉄骨	181.00 m ²	〃	53	4,100,000 円	
トラクター車庫	鉄骨	18.15 m ²	〃	54	380,000 円	
高圧受電室	鉄筋コンクリート	54.00 m ²	〃	54	22,909,000 円	
ボランティア控室	木造モルタル	137.70 m ²	〃	54	18,758,000 円	
汚水調整槽	鉄筋コンクリート	1 箇所	〃	55	14,778,000 円	300m ³
飼育第三倉庫	軽量鉄骨	77.76 m ²	〃	59	8,786,000 円	
総合倉庫	鉄骨一部鉄筋コン	393.66 m ²	〃	60	36,229,000 円	
通用門詰所	木造モルタル	7.29 m ²	改築	60	994,000 円	25年建設
生ごみ集積場	木造	8.10 m ²	建設	60	913,000 円	
受水槽		1 箇所	〃	61	25,119,000 円	
2号受水槽室	軽量鉄骨	164.03 m ²	〃	61	11,350,000 円	
ボイラー倉庫	鉄骨造	218.00 m ²	〃	平元	136,000,170 円	
倉庫	鉄骨造	149.50 m ²	〃	2	16,902,300 円	車庫含む
飼料倉庫	鉄筋コンクリート	430.30 m ²	〃	3	117,164,000 円	
第一レストハウス	鉄骨造	280.73 m ²	〃	4	86,701,000 円	
倉庫（作業所）	軽量鉄骨	49.90 m ²	所管換	5	1,745,000 円	
管理棟（西門）	鉄筋コンクリート	117.62 m ²	建設	7	66,603,500 円	
受水槽		1 箇所	〃	9	160,629,900 円	園内埋設給水管含む
1号受水槽室	鉄骨造	171.11 m ²	〃	9	24,580,500 円	
動物園センター附属棟	鉄筋コンクリート	161.52 m ²	〃	9	66,298,650 円	
展望レストハウス	鉄筋コンクリート	290.00 m ²	〃	17	113,050,350 円	
西門イベントハウス	鉄骨造	339.24 m ²	寄附	22	0 円	札幌振興公社より寄付
オフィシャルステーション	鉄骨造	227.39 m ²	〃	22	0 円	札幌振興公社より寄付
糞尿処理施設	鉄骨造	51.88 m ²	建設	24	36,168,400 円	
高山館裏物置	鉄骨造	19.27 m ²	〃	24	1,089,600 円	
キリン館横物置	鉄骨造	8.19 m ²	〃	28	2,991,600 円	
バクテリア発酵処理施設	鉄筋コンクリート	464.77 m ²	〃	令元	488,891,992 円	
乾草庫	鉄骨造	108.00 m ²	〃	4	46,257,039 円	
計	33棟	4,481.03 m ²			1,533,127,401 円	

動物施設一覧

(R7.4.1)

名称	構造	面積	取得	年度	取得価格	備考
ワシ舎	鉄骨造	72.00 m ²	建設	昭39	774,000 円	1号動物舎
オランウータンとボノボノの森 (屋外放飼場)	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート	482.42 m ²	〃	52	64,202,344 円	36号動物舎 H23増築
猛禽舎	鉄骨造	314.48 m ²	〃	53	21,977,000 円	37号動物舎
ホッキョクグマ館 (旧世界の熊館)	鉄筋コンクリート	1,641.12 m ²	〃	54	231,000,000 円	39号動物舎
モンキーハウス	鉄筋コンクリート	580.09 m ²	〃	59	192,065,000 円	16号動物舎 H23増築
総合水鳥舎	鉄骨・金網檻	705.07 m ²	〃	61	100,841,500 円	44号動物舎 H22増築
カンガルー館	鉄筋コンクリート	367.13 m ²	〃	平元	192,047,748 円	H24増築 H29改修
こども動物舎	鉄筋コンクリート	434.44 m ²	〃	2	173,239,700 円	拡張
シカ・トナカイ放養場調理室	木造(ログハウス)	11.52 m ²	〃	5	5,374,000 円	
熱帯鳥類館	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	842.92 m ²	〃	7	710,022,656 円	H23増築
チンパンジー館	鉄筋コンクリート	455.28 m ²	〃	12	371,571,450 円	
フクロウとタカの森	壁式鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造/平屋建	186.55 m ²	〃	14	40,114,750 円	
リスザルドーム	鉄筋コンクリート	120.50 m ²	〃	15	132,274,000 円	40号動物舎
ふれあい用教室	鉄筋コンクリート	86.00 m ²	改築	16	59,607,000 円	
エゾシカ・材か舎	鉄骨造	597.06 m ²	建設	19	129,515,000 円	
ニトリササ小屋舎	木造	32.40 m ²	〃	19	51,700,000 円	
ザリガニ小屋	木造	48.20 m ²	〃	20	10,182,900 円	
猛禽類野生復帰施設一時保管庫	木造	40.50 m ²	〃	21	7,274,658 円	
猛禽類野生復帰施設作業室	木造	24.30 m ²	〃	21	4,340,843 円	
野生復帰施設繁殖研究棟	鉄骨造	118.81 m ²	〃	26	27,651,330 円	
猛禽類野生復帰施設トレーニングケージ	鉄骨造	580.00 m ²	〃	21	78,975,048 円	
猛禽類野生復帰施設マナブ繁殖ケージ	鉄骨造	60.00 m ²	〃	21	22,397,277 円	
猛禽類野生復帰施設マナブ繁殖ケージ	鉄骨造	120.00 m ²	〃	21	27,444,309 円	
エゾヒグマ館	鉄筋コンクリート	677.45 m ²	〃	21	141,649,200 円	
は虫類・両生類館	鉄筋コンクリート	645.00 m ²	〃	23	426,125,700 円	
寒帯館	鉄筋コンクリート	1,166.09 m ²	〃	24	321,407,000 円	
高山館	鉄筋コンクリート	951.87 m ²	〃	24	279,711,450 円	
熱帯雨林館	鉄筋コンクリート	1,468.92 m ²	〃	24	597,574,950 円	
カバ・ライオン館	鉄筋コンクリート	3,240.61 m ²	〃	27	1,061,298,497 円	
キリン館	鉄筋コンクリート	2,222.82 m ²	〃	27	531,650,053 円	
ホッキョクグマ館 (新館)	鉄筋コンクリート	2,991.70 m ²	〃	29	2,100,615,599 円	
ゾウ舎	鉄筋コンクリート	6,477.51 m ²	〃	30	2,909,314,308 円	
オランウータンとボノボノの森 (屋内施設)	鉄筋コンクリート	1,347.69 m ²	〃	令5	1,219,070,866 円	
計	33棟	29,110.45 m ²			12,243,010,136 円	

教育等施設

名称	構造	面積	取得	年度	取得価格	備考
動物科学館	鉄筋コンクリート	922.48 m ²	建設	平2	404,306,500 円	
動物園センター	鉄筋コンクリート	1,218.43 m ²	〃	9	596,780,500 円	
園内動物病院	鉄筋コンクリート	369.95 m ²	〃	17	177,244,200 円	
計	3 棟	2,510.86 m ²			1,178,331,200 円	

便益施設

名称	構造	面積	取得	年度	取得価格	備考
公衆電話ボックス	ガラス張	1 箇所	建設	平3	0 円	身障者用 N T T 設置
多目的トイレ	鉄筋コンクリート	72.86 m ²	〃	16	37,149,000 円	
こども動物園トイレ棟	木造	49.00 m ²	〃	19	16,115,000 円	
モンキーハウス横トイレ棟	鉄筋コンクリート	54.52 m ²	〃	22	41,869,650 円	
は虫類館横トイレ棟	鉄筋コンクリート	55.90 m ²	〃	23	62,082,300 円	
計	4 棟・1 箇所	232.28 m ²			157,215,950 円	

Ⅱ 園 の 概 要

1 札幌市円山動物園基本方針「ビジョン2050」（2019年3月20日策定）

札幌市円山動物園基本方針「ビジョン2050」は、令和4年6月6日制定の「札幌市動物園条例（第11条）」において、円山動物園の総合的かつ計画的な運営方針として位置付けられています。

<円山動物園の基本理念>

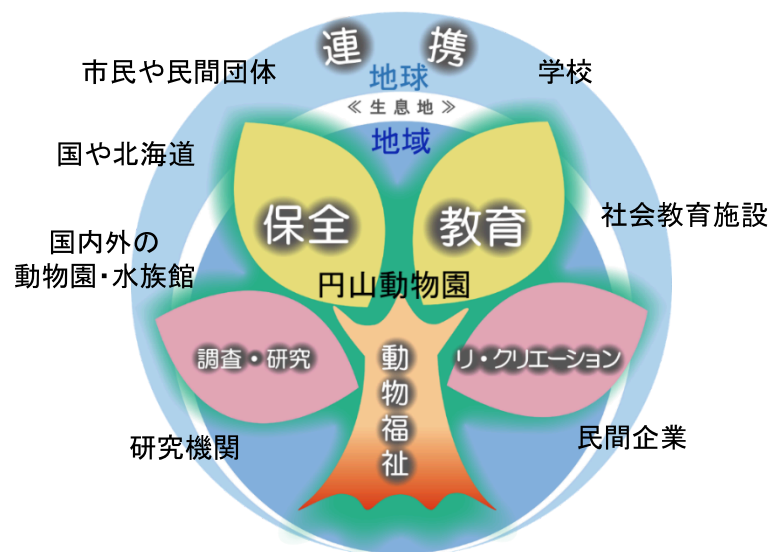
開園100年目である2050年に向け、「命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園」を基本理念とし、自然と人が共生する持続可能な社会の実現に貢献していきます。

動物たちの命を大切につなぎながら、未来の私たちの環境や動物たちの生息地の環境、そして社会がどのようなになっているかを想像し、命の尊さや自然の大切さが感じられる心を育む動物園を目指します。

<基本理念に基づく取組>

全ての人が自然環境の大切さを「実感」し、自然を守るために「行動」し、そして、自然と人が共生する持続可能な社会の「実現」に貢献するため、「動物福祉」を根幹に、生物多様性の「保全」、「教育」「調査・研究」「リ・クリエーション」に力を入れていきます。

次世代の子どもたちに豊かな自然をまもり伝えていくためにも、円山動物園は自然と市民をつなぐ場として、これら4つの取組を重点的に推進していきます。



2 当園のシンボルマーク

開園30周年を記念して公募したもので、外側の円は、動物をとりまく豊かな緑を表現し、開園30周年にオープンした世界の熊館にちなみ、クマの親子のほのぼのとした情景をシンボライズすることによって、動物愛護精神の高揚を念願したものです。



3 規模及び営業

(R7. 4. 1)

住所	札幌市中央区宮ヶ丘3番地1						
所属	札幌市環境局円山動物園						
位置及び地形	札幌テレビ塔から西に約4km（東経141° 21′、北緯43° 03′）						
敷地面積	224,780㎡（67,996坪）		南北	700m	東西	400m	
構造物	74	36,324.62㎡					
	管理施設	33	4,481.03㎡	動物施設	33	29,100.45㎡	
	教育施設	3	2,510.86㎡	便益施設	5	232.28㎡	
収容動物	143種 619点（R7.3.31現在） <div><div>哺乳類 53種 261点</div><div>鳥類 33種 116点</div><div>爬虫類 40種 121点</div><div>両生類 14種 97点</div><div>魚類 3種 24点</div></div>						
職員数	75名						
主な委託業務	① 使用料収納、案内業務 ② 夜間警備業務 ③ 飼料管理業務 ④ 施設清掃業務 ⑤ 緑地等維持管理業務			⑥ 塵芥等搬出業務 ⑦ 給排水設備等維持管理業務 ⑧ 園内施設運転管理整備業務 ⑨ バイオ発酵処理設備運転管理業務 ⑩ 駐車場管理等業務（指定管理） など			
年間入園者数	816,146人（令和6年度）						
電力消費	2,539,892 KWH（令和6年度） トランス容量 2,655 KVA（3相 1455 KVA 単相 1200 KVA）						
上水道消費	110,072 m ³ （令和6年度）						
営業時間	3月1日～10月31日 9：30～16：30 11月1日～2月末 9：30～16：00						
休園日	毎月第2、4水曜日（8月第1、4水曜日）4月と11月第2水曜日を含む週の月～金、12月29日～31日						
入園料	800円/人（30名以上の団体 720円/人）、高校生400円、年間パスポート 2,000円/人 中学生以下無料						
駐車場	円山公園駐車場 第一駐車場 612台（普通車換算） 18,706㎡ 第二駐車場 276台（普通車） 4,160㎡（うち屋外部分 2370.1㎡） 計 888台 25,236㎡ 円山動物園駐車場 220台（普通車）						
サービス施設	ベビーカー 29台 食堂・売店 売店5店（兼食堂4店） 車椅子 31台 オフィシャルショップ 2カ所（動物科学館・西門そば） 電動カート 2台 コインロッカー 2カ所（正門・西門）						

入園料等の推移

入園料		料金			備考
設定	区分	一般	団体	パスポート	
昭和27.7.13	大人	20	16		12歳以上
	子供	10	8		11歳以下
昭和30.4.1	大人	30	24		12歳以上
	子供	10	8		4～11歳
昭和32.4.1	大人	40	32		12歳以上
	子供	15	12		4～11歳
昭和41.4.1	大人	80	65		高校生以上
	中人	50	40		中学生
	子供	20	15		小学生
昭和44.4.1	大人	100	80		高校生以上
	中人	50	40		中学生
	子供	20	15		小学生
昭和48.4.1	大人	100	80		高校生以上
昭和51.4.1	大人	300	250		高校生以上
昭和55.4.1	大人	400	350		高校生以上
昭和59.4.1	大人	500	450		高校生以上
平成4.4.1	大人	600	540		高校生以上
平成17.4.1	大人	600		1,000	高校生以上 年間パスポート新設
令和2.4.1	大人	800		2,000	高校生400円

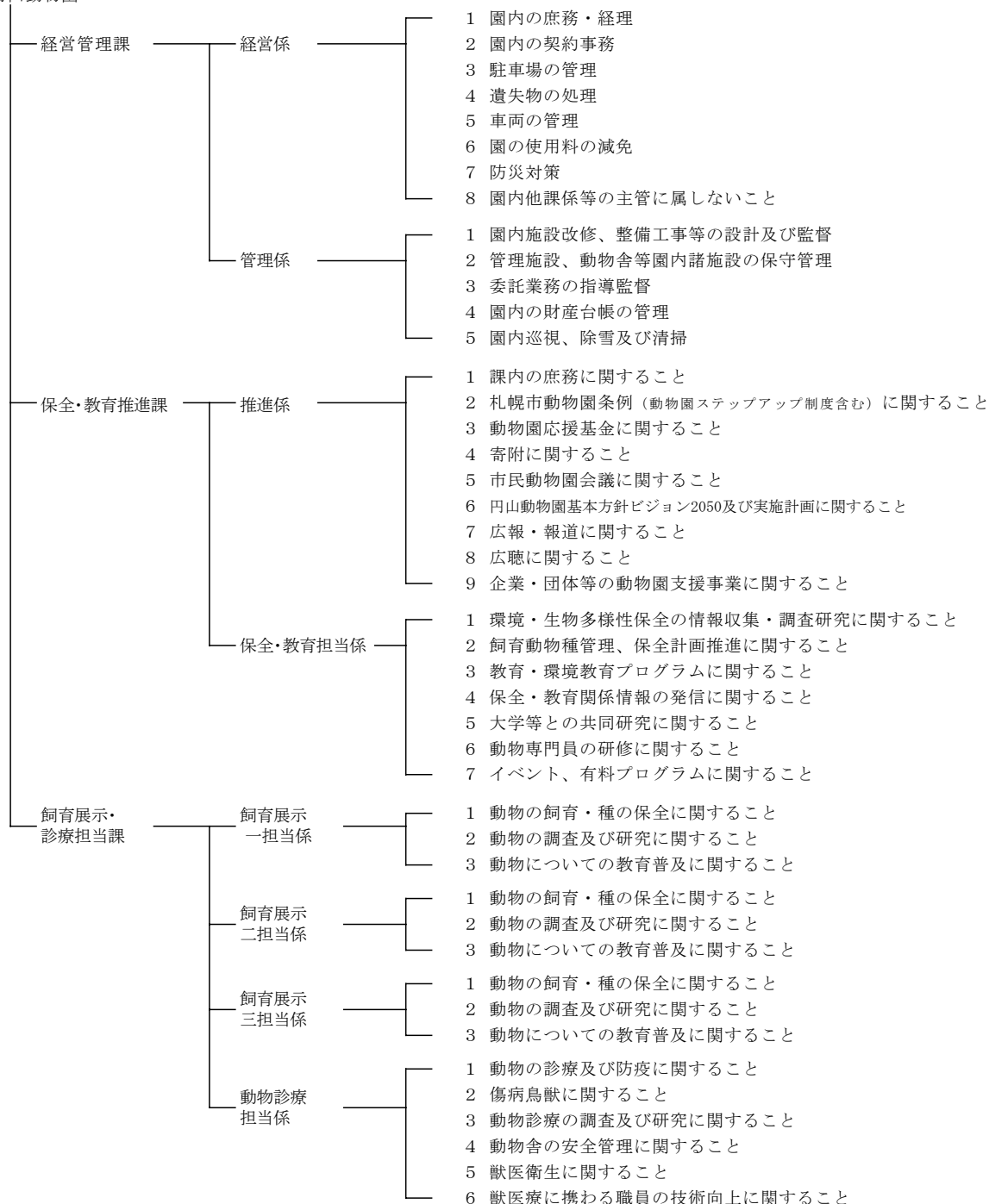
遊覧料		料金			備考
設定		大型	中型	小型	
昭和44.4.1		40	30	-	
		30	20	10	
昭和50.4.1		40	30	10	
昭和51.4.1		60	50	30	
昭和55.4.1		70	50	30	
昭和59.4.1		100	-	50	回数券1,000円
昭和63.4.1		150/100	-	50	回数券1,000円
平成4.4.1		180/120	-	100/50	回数券1,200円
平成6.6.17		遊戯施設廃止			

駐車料		料金				備考
設定		大型	中型	普通	二輪	
昭和47.4.1		300	-	150	30	昭和46.8開始
昭和49.4.1		300	-	200	30	
昭和51.4.1		600	-	400	100	
昭和55.4.1		1,000	-	600	100	
平成4.4.1		1,200	1,000	700	100	

4 機構と業務分担

(R7. 4. 15)

環境局
円山動物園



職員の配置と職種

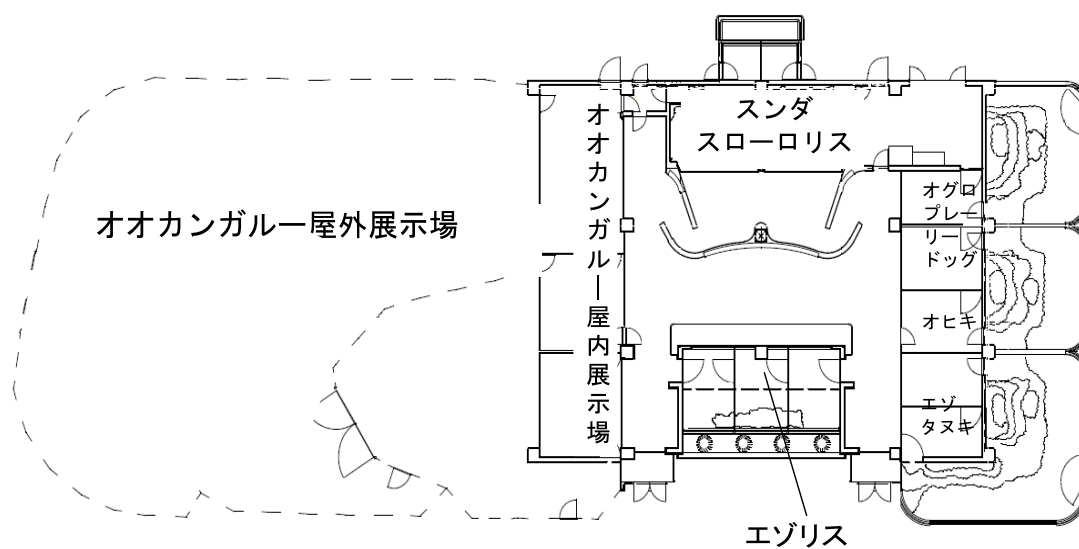
(R7. 4. 15)

		事務職	技術職							技能職	会計年度任用職員						
			事務	衛生	造園	電気	土木	機械	建築	動物専門	機械	公園	動物飼育	動物診療	動物解説	事務	運転転手
計		75	10	11	1	1	0	1	1	29	2	2	9	1	3	3	1
経営管理課	経営係	9	5	1												2	1
	管理係	8			1	1		1	1		2	2					
保全・教育推進課	推進係	6	4	1												1	
	保全教育担当係	6		2						1					3		
飼育展示・診療担当課	飼育展示一担当係	17	1	1						10			5				
	飼育展示二担当係	13		1						9			3				
	飼育展示三担当係	11		1						9			1				
	動物診療担当係	5		4										1			

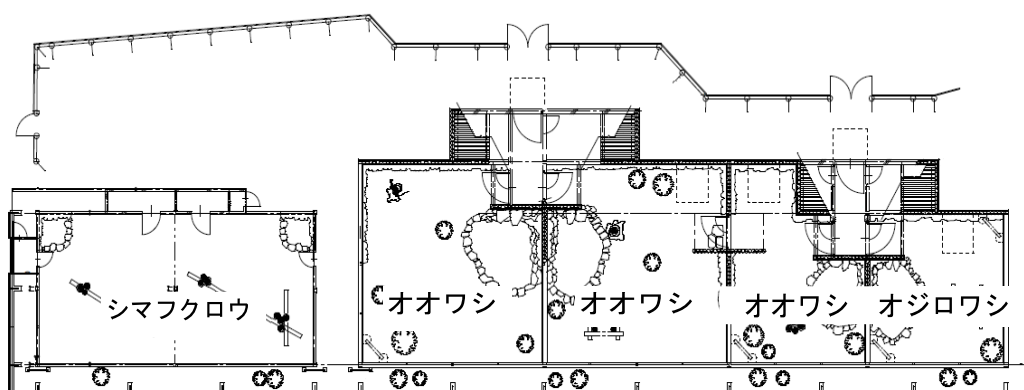
5 主な展示施設と位置図

名称	建設	規模	特 徴
オランウータンと ボルネオの森	昭和52. 11 平成20. 3 屋外改修 令和6. 5 屋内改築	屋内1347. 69㎡ 屋外482. 42㎡	1977年に類人猿館を建築し、ゴリラ、チンパンジー、オランウータン、テナガザルなどの類人猿を飼育してきた。施設の老朽化が進み、屋内放飼場の改築工事を行った。新施設は、旧施設と比べて屋内放飼場の面積が約3倍、高さが2倍となり、樹上での生活を基本とするオランウータンの本来の行動が発現できる施設を目指した。また、オランウータンのほかに熱帯雨林を再現した植栽や、熱帯雨林に棲む魚や虫なども飼育。屋内施設の改築に伴い、類人猿館から名称を変更。
猛禽舎	1978. 6	314. 48㎡	鉄骨金網張り一部モルタル造で、高さ4. 6～6mのケージの中に、とまり木、池、巣台などを備えてオオワシ、オジロワシ、シマフクロウを展示している。
こども動物園	1980. 12 平成3. 3. 拡張 平成20. 3改修	434. 44㎡	安全で親しみやすい動物を展示する施設であり、ヒツジ・モルモット・アヒル・ガチョウなどを展示して、子供たちが動物を間近で観察できるようになっている。平成19年度には展示エリアを拡大し、既存施設をビーバーの森、ドサンコの森に改修するとともに、トイレ等の新築を行なった。
サル山	昭和57. 10 平成27. 10改修	572. 61㎡	深さ4. 5m、直径25mの円形放養場。平成27年度に放養場中央部を改修した際には「高校生によるワークショップ」を開催し、ニホンザルにとってより自然な環境を提供できるよう「市民意見」も取り込んだ形で行った。
モンキーハウス	1984. 10 平成26. 12改修	屋内454. 09㎡ 屋外126. 00㎡	雨天時や冬期には、屋内で観察できる猿類の展示場で、冬期間日光が一日中入るように設計されている。ワオキツネザル、ダイアナモンキー、フサオマキザル、ブラッザゲノン、マンドリル、ドグエラヒビを展示している。
総合水鳥舎	1986. 12	屋内133. 08㎡ 屋外571. 99㎡	暖房設備のある屋内放養場をもち、池にも凍結を防止し快適な水温を維持できる設備を備え、冬期間も観察できるようになっている。
カンガルー館	平成元. 8 平成28. 11改修	屋内267. 37㎡ 屋外99. 76㎡	カンガルーを展示すると共に昼夜を逆転させた夜行性動物舎も備えている。平成19年4月タスマニア館から名称変更。
動物科学館	1991. 3	922. 48㎡	野生動物の生き方やくらし方、動物と人間とのつながり、自然環境保護の大切さをよく理解することができるように、ジオラマや映像機器を使い、わかりやすく楽しく学べる施設。
熱帯鳥類館	1995. 3 平成27. 2改修	屋内676. 26㎡ 屋外166. 66㎡	バードホール内の熱帯植物の中を熱帯鳥類が自由に飛びまわり、一日3回スコールが降り注ぐなど、より野生の自然環境に近い状態で観察することができる。
動物園センター	1998. 3	1, 218. 43㎡	園内の総合案内をはじめ、動物情報の提供やギャラリー、研修・学習会場としての役割を持ち、天候に影響されず一年を通じて動物に関する情報を来園者に提供する。
チンパンジー館	2000. 9	屋内301. 67㎡ 屋外153. 61㎡	チンパンジーの野生に近い状態で展示（生態展示）を目的とした専門館。屋外展示場には高さ15mのジャングルジムを設置し、アリ塚も設けている。
フクロウとタカの森	平成15. 1	186. 55㎡	柱へ擬木の使用、止まり木も実際の倒木などを利用し、園内の木々と調和した動物舎。
リスザルドーム	平成16. 3	120. 50㎡	周りがガラス張りの通路とし、頭上をリスザルが行き来する生態を観察することができる施設。
園内動物病院	平成17. 12	369. 95㎡	診療室、検査室の他、入院室、解剖室並びに検疫室を有する。飼育動物の治療の他、小中高校生を対象にした教育プログラムを実施し、環境教育に取り組んでいる。
展望レストハウス	平成18. 3	290. 00㎡	ガラス越しにニホンザルが餌を食べる様子を間近で見られ、ゆったりとくつろぎながら生態を観察することができる施設。子どもたちが遊んだり、絵本を読んだりできるスペースもある。
エゾシカ・オオカミ舎	平成20. 3	597. 06㎡	ガラス越しにエゾシカ・オオカミ両方の動物たちを間近にゆっくり観覧できる施設。エゾシカ放養場のオープンデッキでは、エゾシカを間近に観察でき、オオカミ放養場では、動き回るオオカミの姿をブリッジ、展望デッキ及び多くのぞき窓など様々な角度から観察できるよう工夫している。また、多目的トイレ、授乳室、キッズルーム（森のひろば）なども設置している。
ザリガニ小屋	平成21. 3	48. 20㎡	在来種ニホンザリガニを飼育している。
猛禽類野生復帰施設	平成22. 2	943. 61㎡	傷病保護及び園内繁殖した猛禽類の野生復帰や飛行訓練を目的とし、トレーニングケージ、繁殖ケージ、繁殖研究棟等を建設した。
エゾヒグマ館	平成22. 3	屋内152. 21㎡ 屋外525. 24㎡	エゾヒグマの本来の姿や生態を展示することで、身近なところから環境問題や北海道の自然を考えるメッセージを発信する場として建設した。 施設の特徴としては、大きなアクリルガラスを設置した2か所の観覧スペースや、「プール」、「雨宿りスペース」、「えさ穴」等、ヒグマの様々な行動を間近で観察することができる施設となっている。
は虫類・両生類館	平成23. 3	645. 00㎡	植栽や擬岩、演色性の高い照明等の導入により、展示動物の生息地にあったレイアウトを施し、来園者の高揚感を創出するとともに、美術品を鑑賞するような静かで落ち着いた空間構成になっている。 熱帯、亜熱帯、日本・温帯と生息地に合わせた展示を行う「小中型展示ゾーン」は、40マスに分かれており間近で観察することが出来る。また、大型の動物を展示する「大型展示ゾーン」では、ワニが水中で泳ぐ姿を観察できるようになっている。さらに、バックヤードを公開型とすることで、動物が孵化する様子なども観察することができる。
寒帯館	平成24. 12	屋内540. 19㎡ 屋外625. 90㎡	生息地の環境を再現した「生息環境展示」を採用することにより、動物の本来的な動きを再現している。また、環境エンリッチメントに配慮し、飼育動物福祉の向上を図っている。
高山館	平成24. 12	屋内392. 50㎡ 屋外559. 37㎡	屋内・屋外放育場とも、自然木を活用し、動物本来の生き生きとした動きを引き出せるようになっている。特にレッサーパンダの観覧スペースには、観覧者の上部に吊り橋やサークルなどを配し、観覧者とレッサーパンダが一体の空間に過ごせるようになっている。
熱帯雨林館	平成24. 12 平成29. 11改修	屋内943. 68㎡ 屋外525. 24㎡	アジア圏の熱帯雨林に生息する動物を集約した施設となっており、それぞれの動物に応じた環境の再現をおこなう展示手法を用いている。屋外放飼場も、ガラスの多用により観覧者が動物との一体感を感じられるようになっている。
カバ・ライオン館	平成27. 8	屋内1780. 78㎡ 屋外1459. 83㎡	サバンナ及びその水辺に生息する動物たちを中心に、肉食動物・草食動物、捕食者・被捕食者を効果的に展示することにより食物連鎖や動物たちの共生、“命のつながり”を表現する施設となっている。特にカバは水中の行動が観察できるよう、プール壁面の一部をガラス化している。
キリン館	平成27. 8	屋内971. 76㎡ 屋外1251. 06㎡	できるだけ動物と観客の地面の高さを合わせ、動物の大きさを感じることができるとともに、屋内外ともに柵を工夫し、動物をより細かいところまで観察することができるようになっている。特に、建物2階からはアフリカゾーンを一望できるうえ、キリンの目線の高さから観察できるようになっている。
ホッキョクグマ館 (新館)	平成29. 10	屋内1419. 5㎡ 屋外1572. 2㎡	北極圏に住むホッキョクグマとアザラシを展示し、北極圏の生態系の一部を見て、生息地のことや、その環境について学ぶきっかけになるだけでなく、海外の動物園との連携を進めていくため、世界基準のホッキョクグマの施設基準に沿った獣舎となっている。
ホッキョクグマ館 (旧世界の熊館)	昭和55. 3	屋内574. 71㎡ 屋外1066. 41㎡	自然木、擬岩、池などを配置した放養場を主体に、おり式を組合せ屋内に産室を備えた他に例のない施設。ホッキョクグマを展示している。
ゾウ舎	平成30. 10	屋内4, 117. 51㎡ 屋外2, 360㎡	ゾウの群れでの動きや採食行動など、自然に近い行動をゆっくりと観察することができる施設となっている。また、屋内・屋外ともに床面には砂を敷き詰めているほか、ゾウの健康維持で重要な水場を確保するため、水浴び可能なプールを設置するなど、動物の福祉に十分に配慮したつくりとなっている。加えて、飼育員とゾウ両方の安全を確保するため、準間接飼育法によりゾウの健康管理等を行うことができる施設。

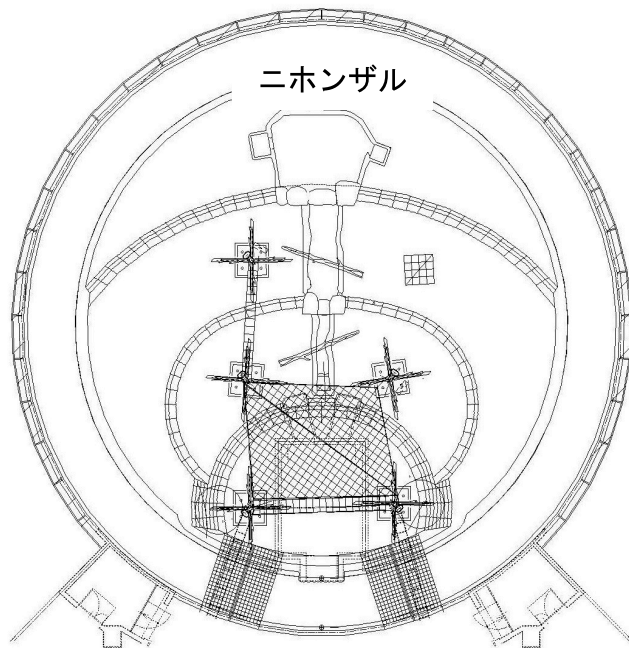
カンガルー館



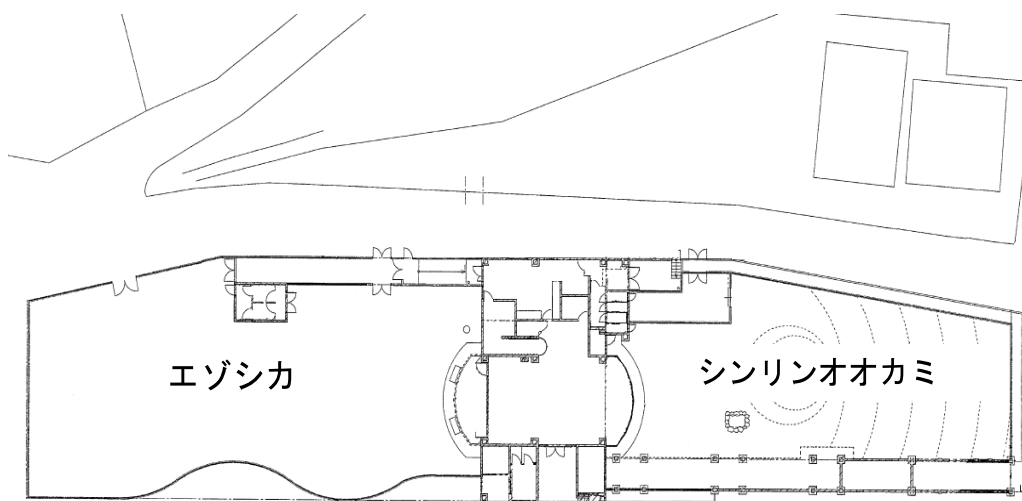
猛禽舎



サル山

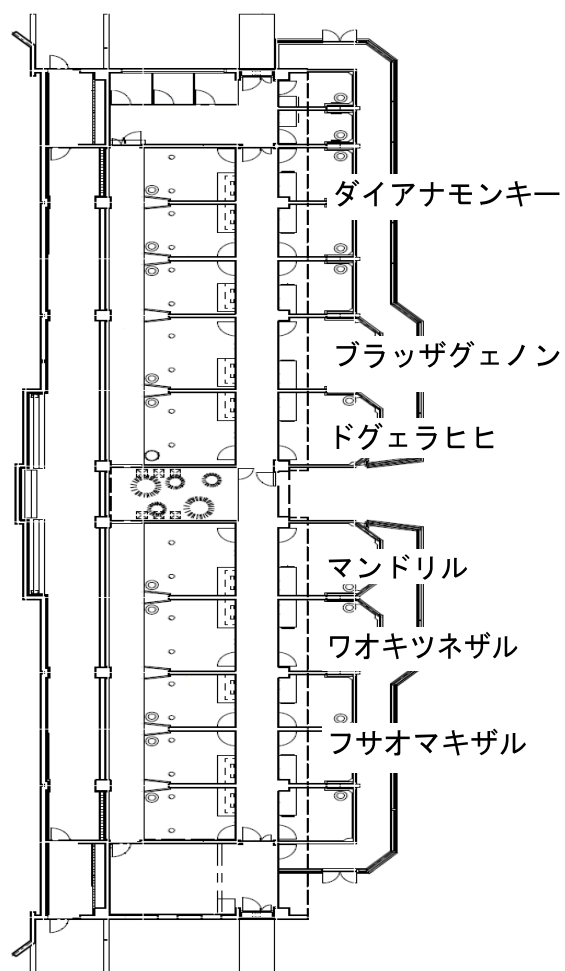


エゾシカ・オオカミ舎



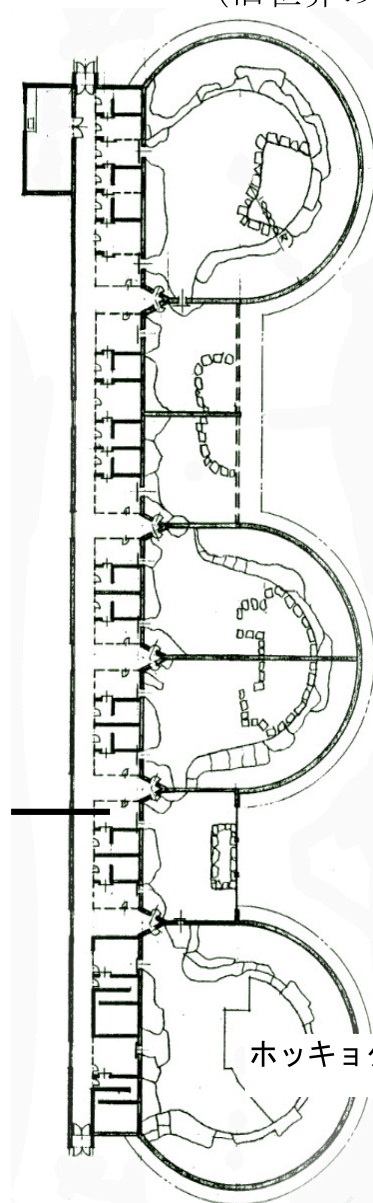
(R7.4.1現在)

モンキーハウス

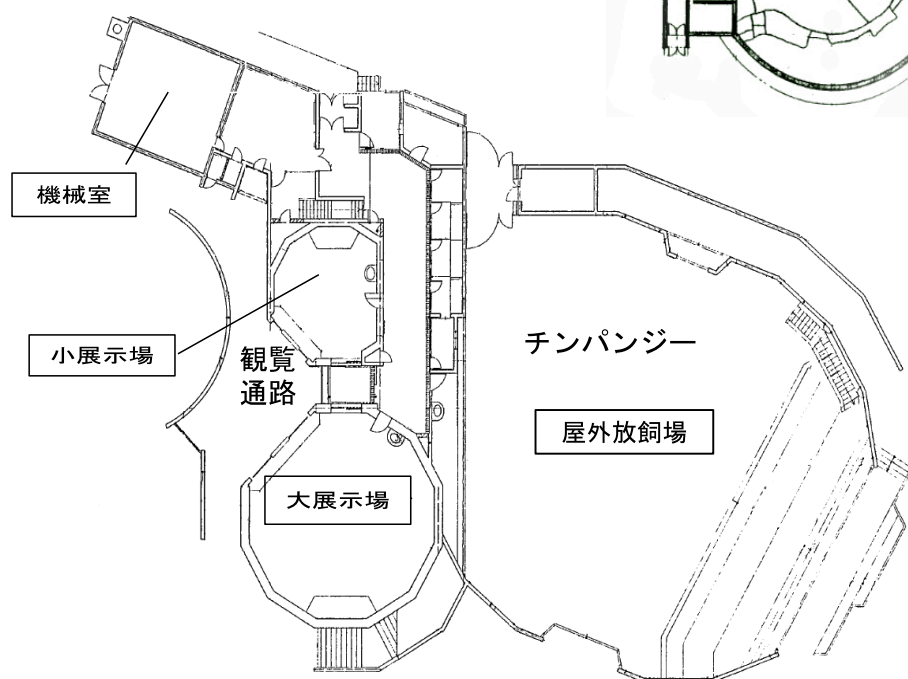


ホッキョクグマ館

(旧世界の熊館)

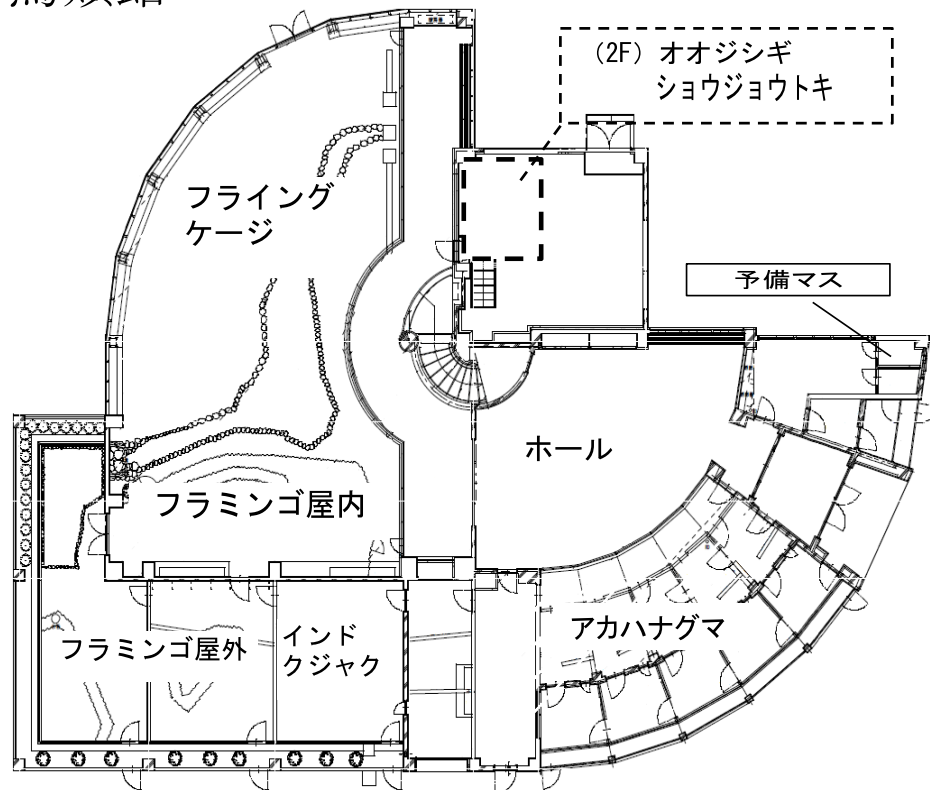


チンパンジー館

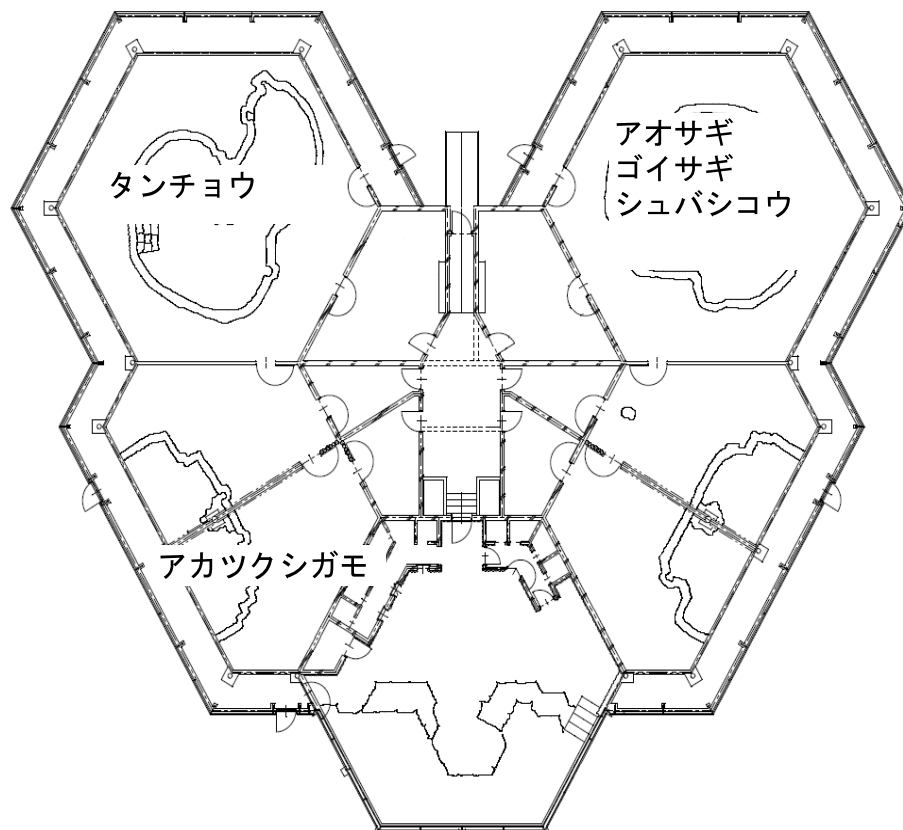


熱帯鳥類館

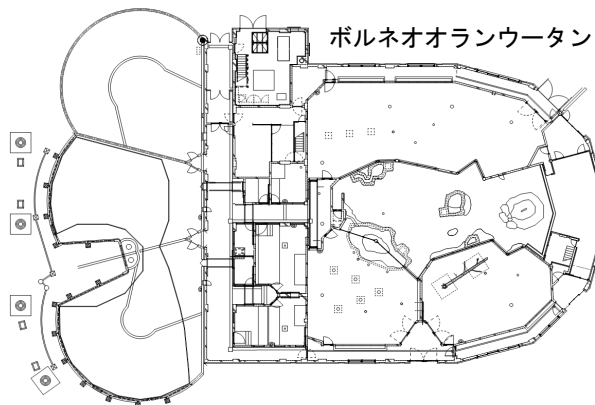
(R7.4.1現在)



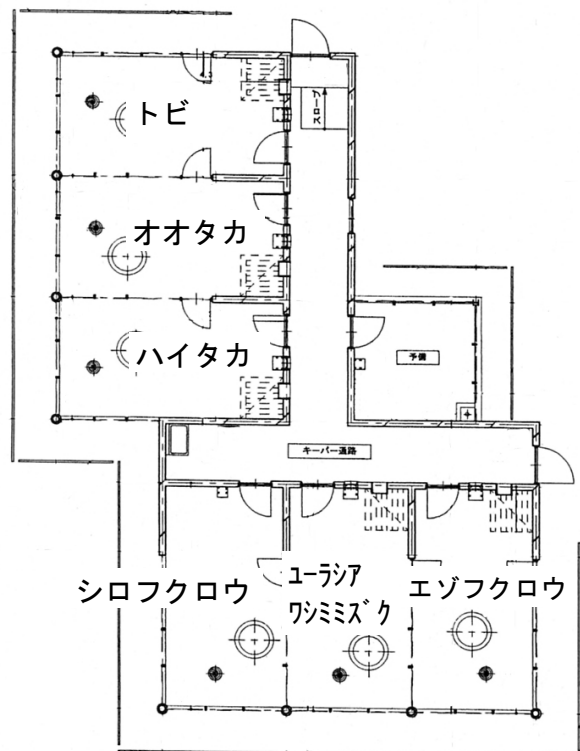
総合水鳥舎



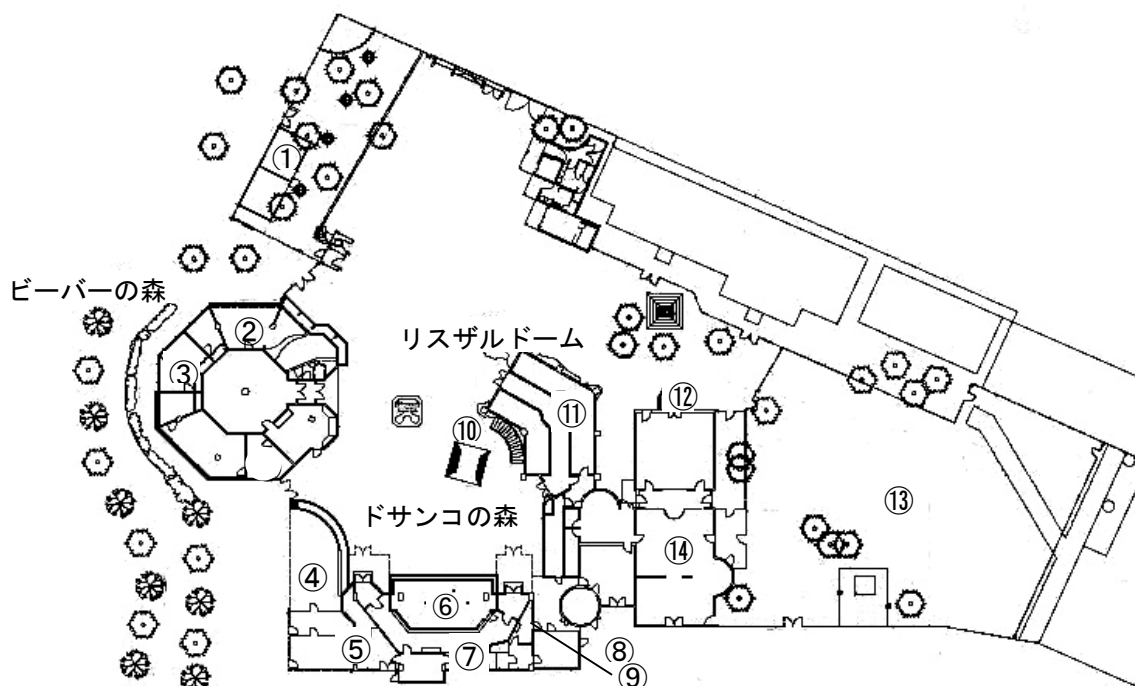
オランウータンと ボルネオの森



フクロウとタカの森



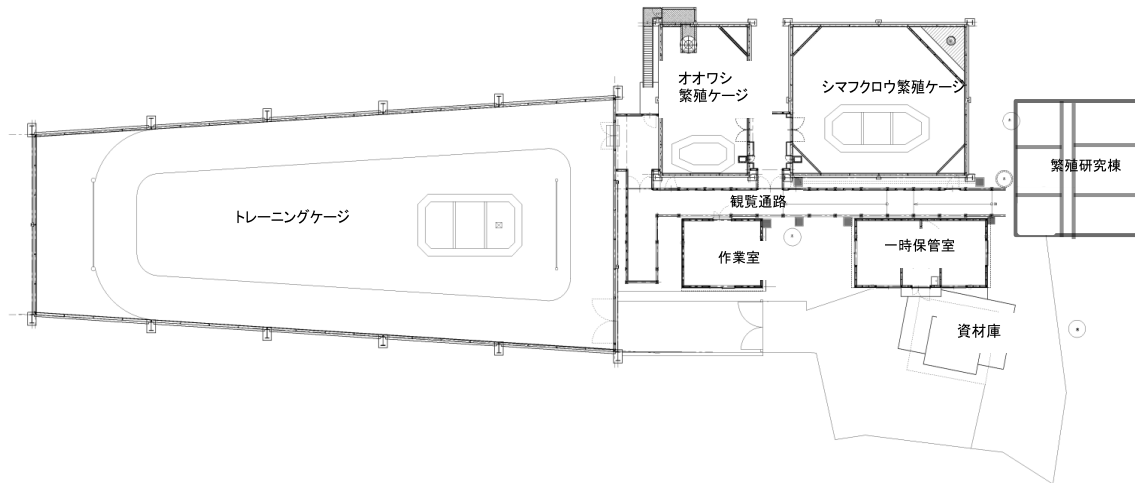
こども動物園



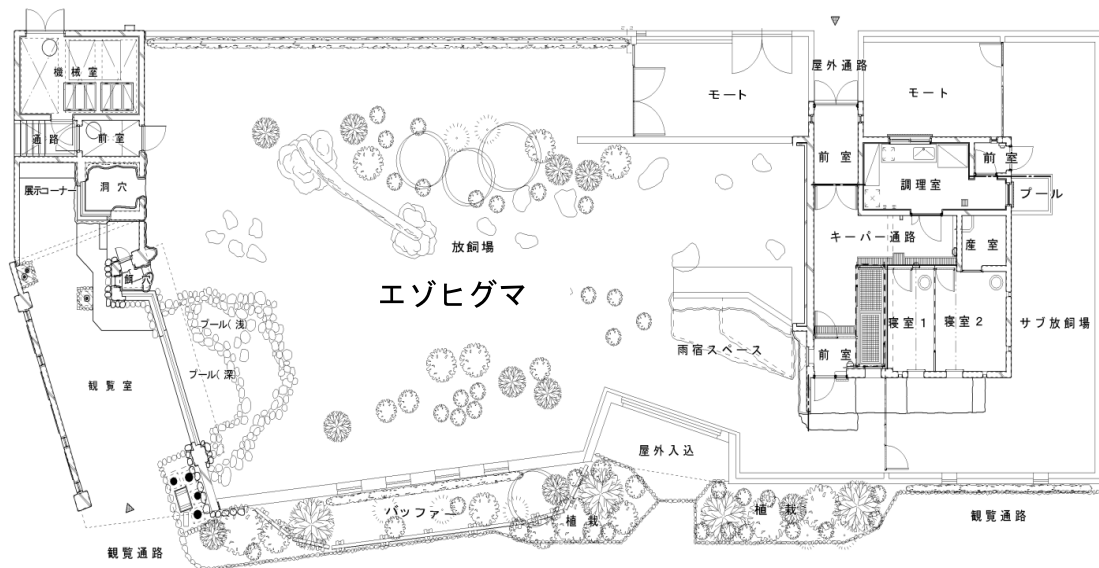
①	—	⑧	エゾヤチネズミ
②	コールドック、ガチョウ	⑨	エゾアカネズミ
③	アライグマ	⑩	アメリカビーバー
④	エゾユキウサギ	⑪	リスザル
⑤	エゾリス	⑫	モルモット
⑥	コウモリ	⑬	シェットランドポニー
⑦		⑭	ヒツジ

猛禽類野生復帰施設

(R7.4.1現在)

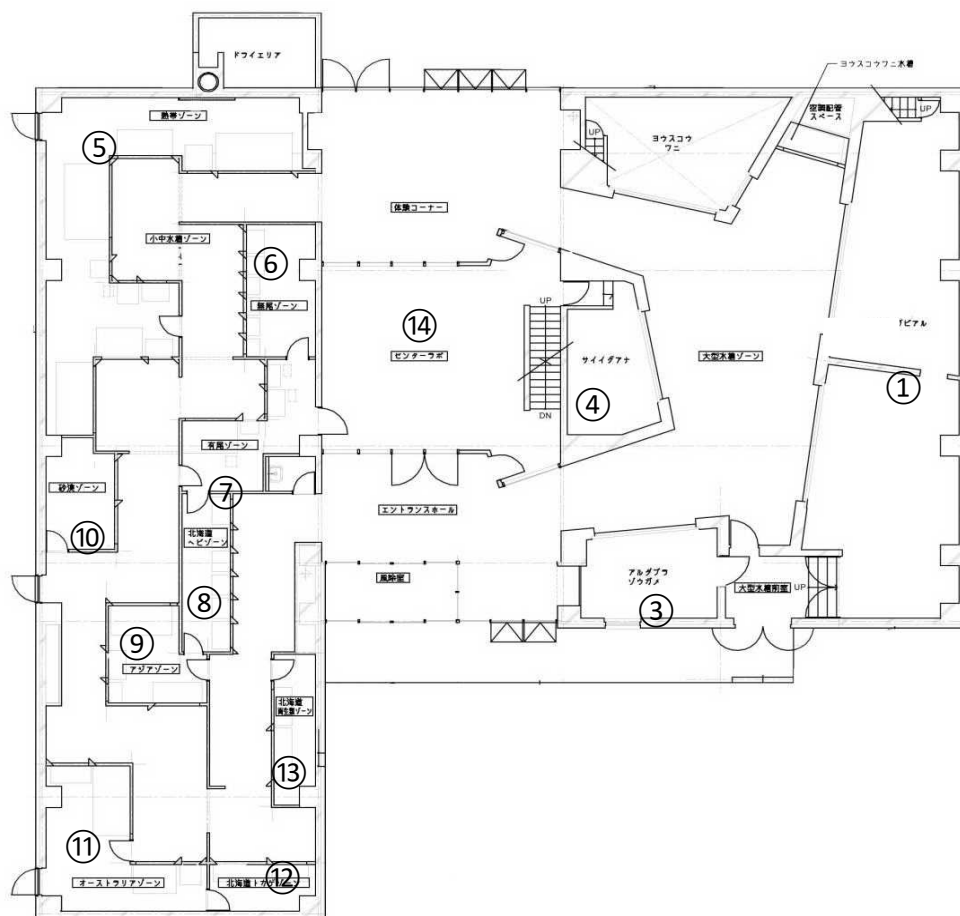


エゾヒグマ館



は虫類・両生類館

(R7.4.1現在)

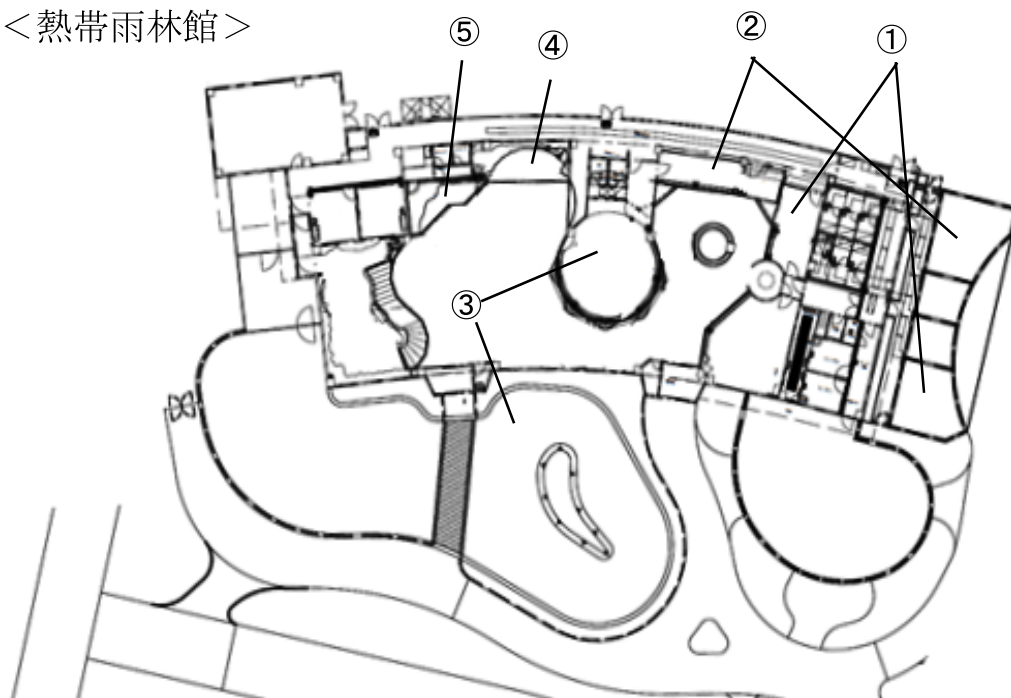


①	ガビアルモドキ	⑨	アジア産は虫類
②	ヨウスコウワニ	⑩	砂漠産は虫類
③	アルダブラゾウガメ	⑪	オーストラリア産は虫類
④	サイイグアナ	⑫	北海道産トカゲ
⑤	熱帯産は虫類	⑬	北海道産両生類
⑥	両生類（無尾類）	⑭	センターラボ
⑦	両生類（有尾類）		
⑧	北海道産ヘビ		

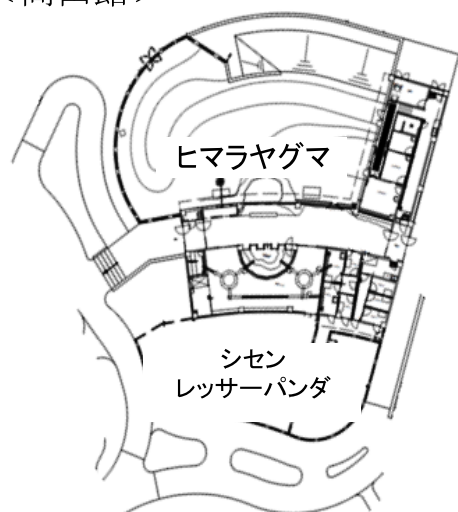
アジアゾーン

(R7. 4. 1現在)

<熱帯雨林館>



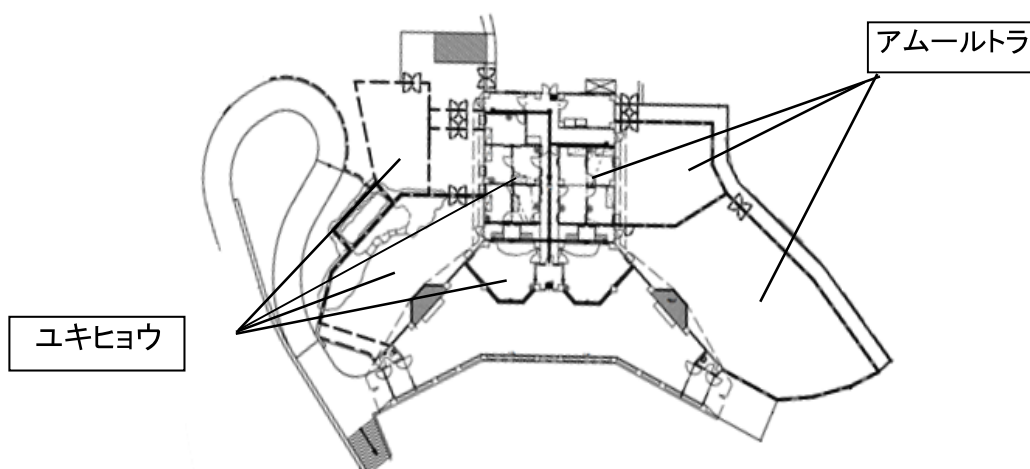
<高山館>



熱帯雨林館

①	シシオザル
②	クロザル、テナガザル
③	シロテテナガザル
④	コツメカワウソ
⑤	

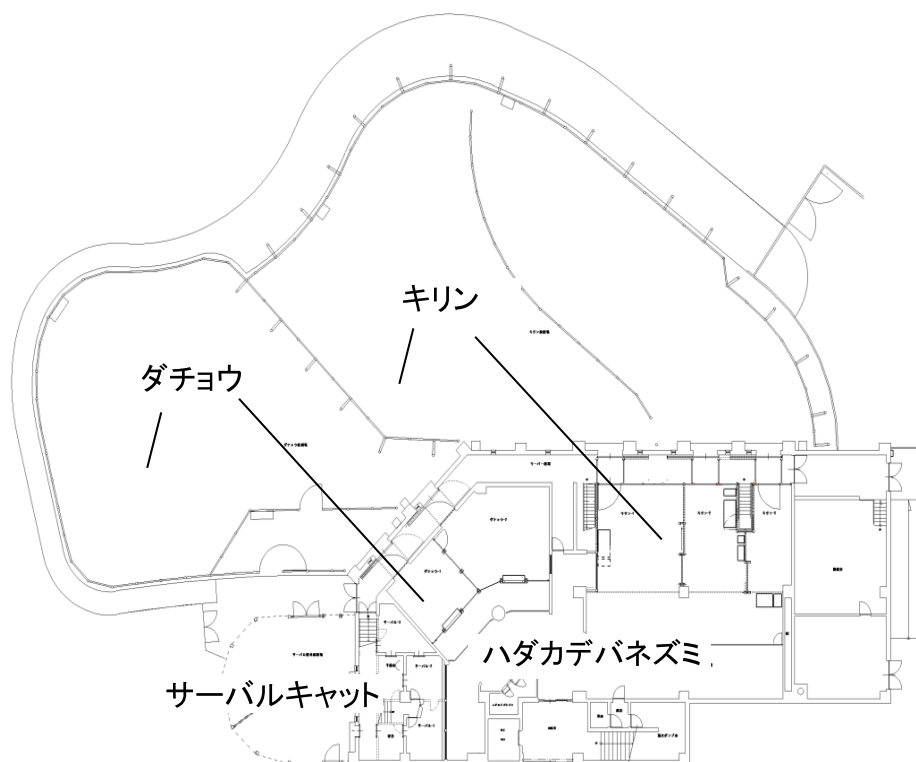
<寒帯館>



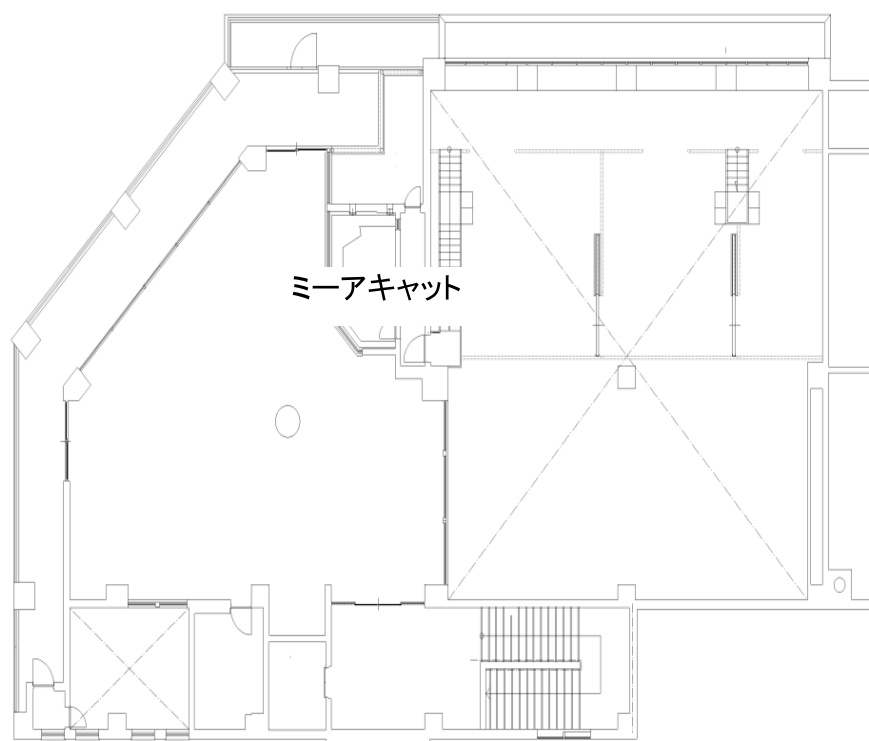
アフリカゾーン

(R7.4.1現在)

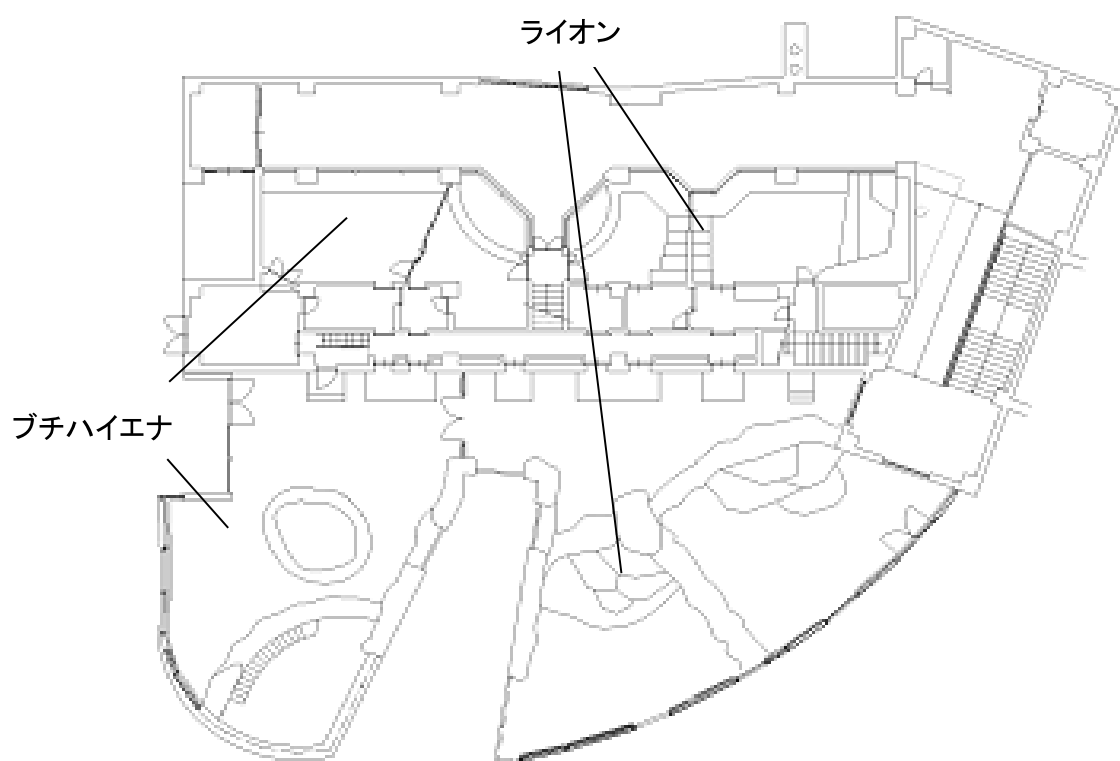
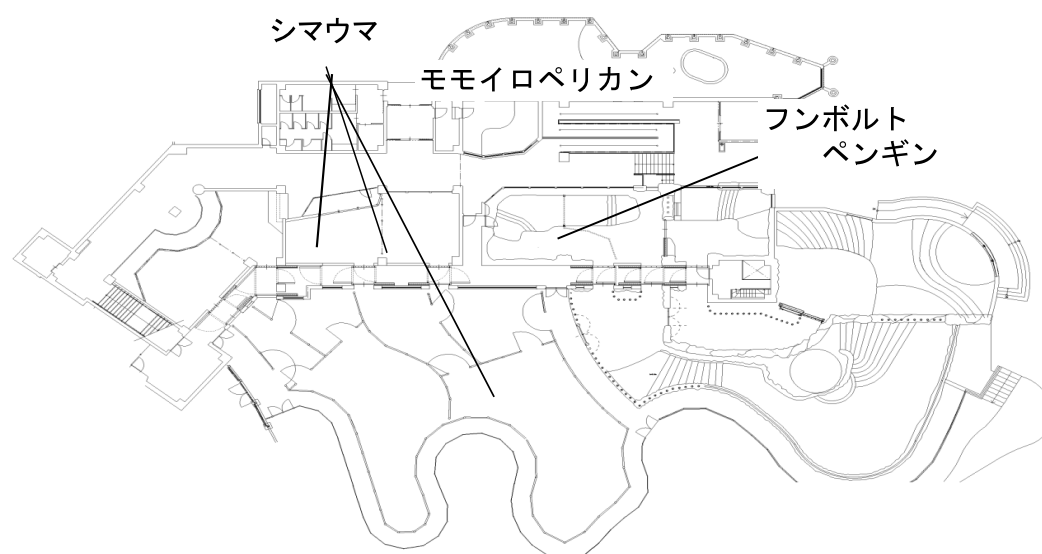
<キリン館1階>



<キリン館2階>



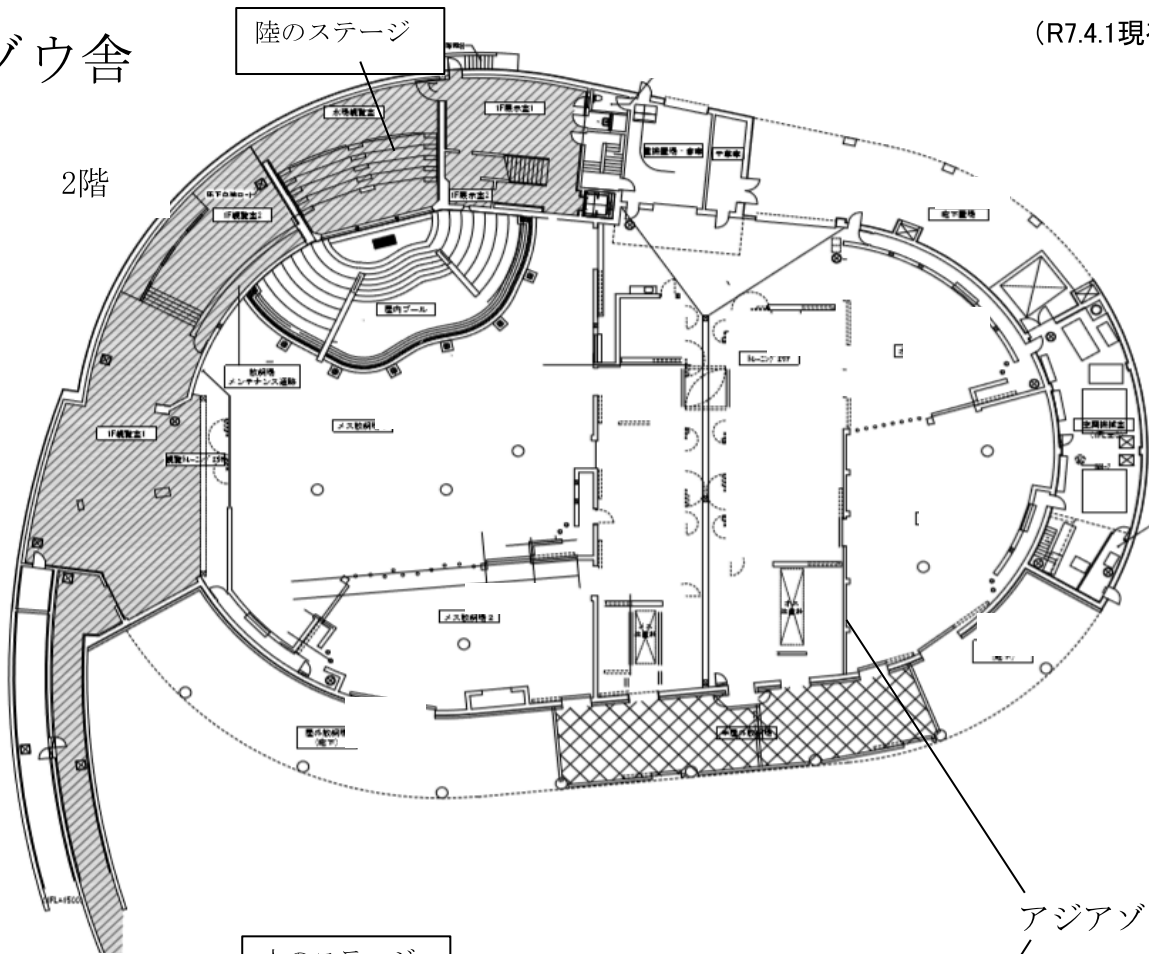
<カバ・ライオン館>



ゾウ舎

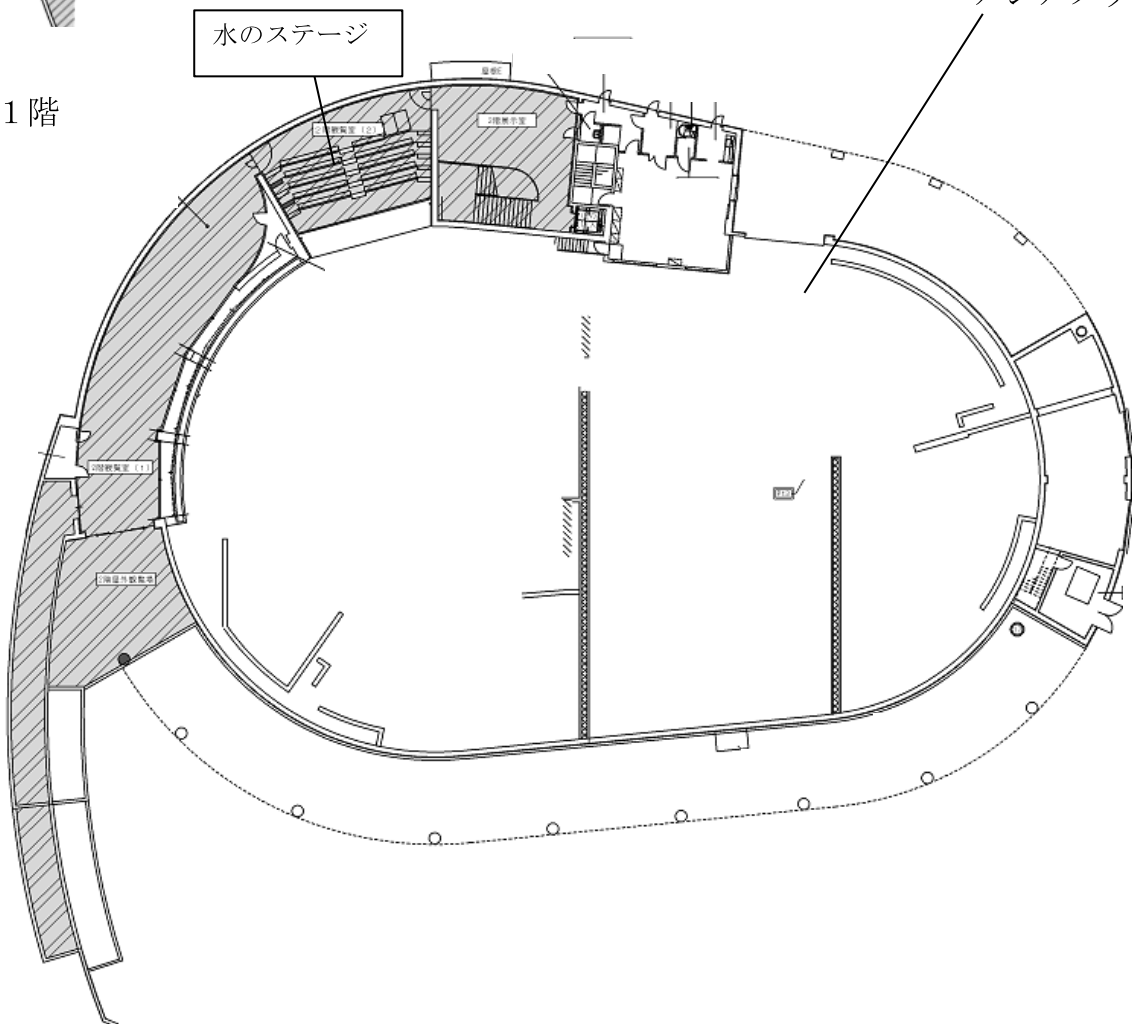
(R7.4.1現在)

2階



アジアゾウ

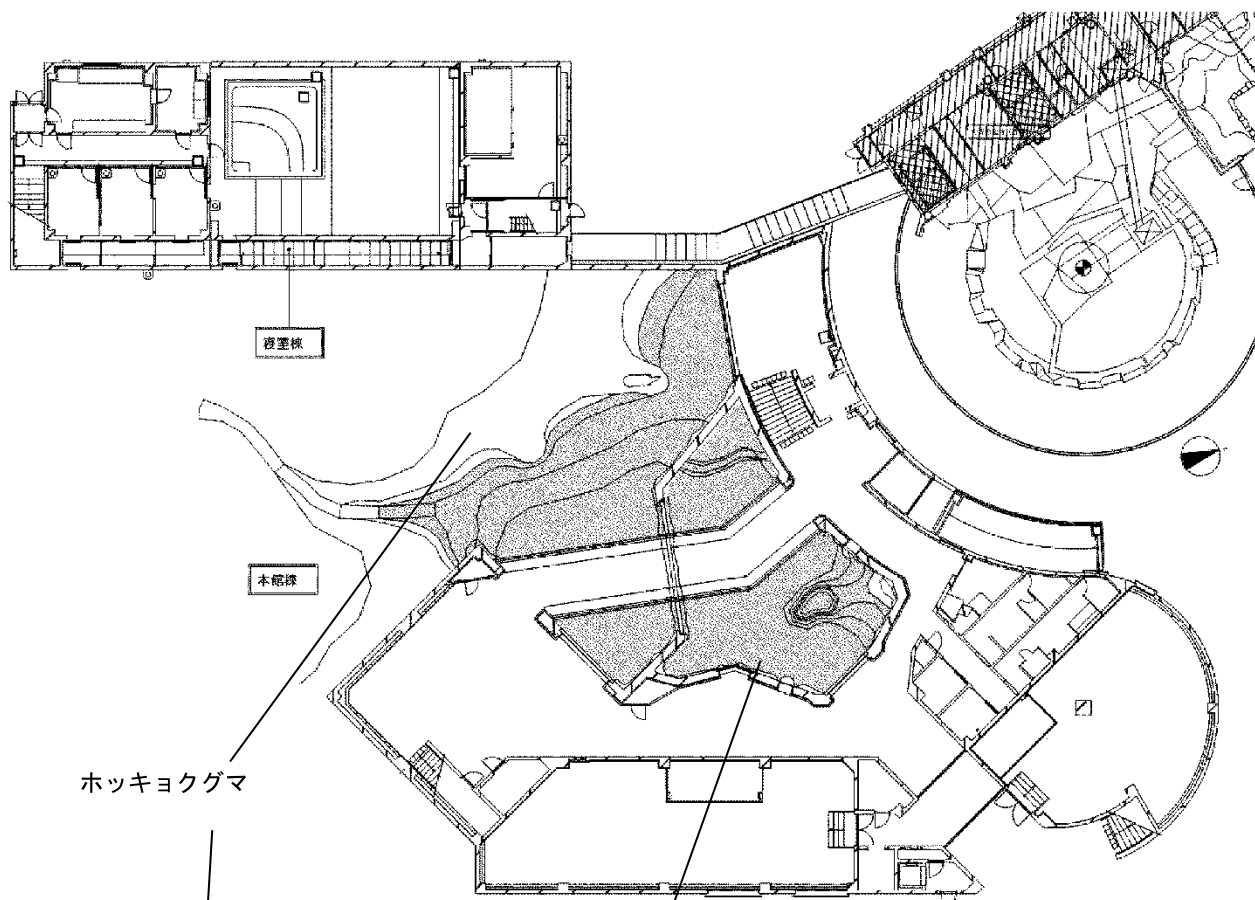
1 階



ホッキョクグマ館（新館）

(R7.4.1現在)

1階



2階

